

令和 8 年度第 1 回中津川市公共交通会議 議事要旨

日 時 令和 8 年 6 月 26 日（金）14：30～16：00
場 所 中津川市役所 4 階 大会議室
出席者 委員 21 名（うち代理出席 10 名）、事務局 4 名

■開会

■会長あいさつ（可知副市長）

■学識経験者あいさつ（倉内先生）

■報告

報告 1 令和 7 年度生活支援サービス実績報告（高齢介護課）

- ・報告 1 について説明（高齢介護課）

【質疑・意見等】

- ・補助があるということで確認だが、白ナンバーを前提とした移動ということでよろしいか。
⇒そのとおり。
- ・昨今白ナンバーでの運送が社会的に関心を集めている部分もあり、制度の詳細など個別で確認させていただくことがあるのでご了承いただきたい。また、市内には緑ナンバーの福祉タクシー事業者もいるので、活用連携もご検討いただきたい。
- ・令和 7 年度実績があるが、予算的にどれくらい支出しているのか。
⇒1 団体が 355,800 円、もう 1 団体が 232,000 円。
- ・車内にドライブレコーダーは付いているのか。
⇒ボランティアの方の車両を利用しているため、車両による。
- ・タクシーなどお客様を乗せる場合は大体車内にカメラがあり、トラブル等がよく送迎で発生するので、できるだけ付けた方がいい。また、保険の関係もしっかりしていただくこと。もう 1 点気をつけていただきたいことが、このような事業でよくあることで実はお金をもらっていたという事例があるので、審査時にはよく確認していただきたい。

報告 2 長野県宿泊税を活用した定期周遊バス「飯田☆中津川線」の新設（都市計画課）

- ・報告 2 について説明（事務局）

【質疑・意見等】

- ・中津川駅から馬籠は乗降できないので問題はないと思う。以前信南交通が昼神温泉から馬籠までを 21 条で許可を取って運行していた。今回は天竜峡、伊那の方面から貸切バス会社がやるということだが、実際の利用状況も鑑みて、ブラッシュアップしていただきたい。リニアの駅もできるので、広域観光として今後発展していけばいいと思う。
- ・中津川から飯田ということで、中津川の滞在時間も 5 時間程ある。多くの方は馬籠に行くと思うが、他にも観光地や買い物などできることはあるので、観光資源と繋げながらお客様に活動の良

さをPRしてこのバスを使っていただきたい。

⇒実証運行の結果も飯田市には共有してもらい、両市を訪れる観光客にとって良い方向に繋がって
いければと思うので、ご協力いただきたい。

報告3 令和7年度事業報告（都市計画課）

・報告3について説明（事務局）

【質疑・意見等】

・自動運転の実証実験結果を踏まえた今後の展開はあるのか。

⇒今年度については、国の補助制度が見直されたことに伴い、一旦休止という形になった。引き続き東濃地域自動運転推進コンソーシアムも組んでいるので、市としては東濃地域一体として取り組んでいく方向で考えている。

報告4 令和7年度評価指標に対する実績について（都市計画課）

・報告4について説明（事務局）

【質疑・意見等】

・採用には力を入れているがなかなか難しい状況ではある。しかしながら、今年度4月に高校を卒業した女の子が初めて運転手見習い生で入社した。1年経って特別講習を受け、来年の夏以降にデビューすると思うが、女性の若い運転手が誕生するということで温かく見守っていただきたい。

・元ガイド職の女性が運転手になりたいということで、子育て中であるが6月に入社した。

・女性の事務職で運転手に挑戦したいということで、事務職と兼務になるが自動車学校に通い始めた。

・現在2名の女性運転手がいるが、転職する方などを含め5名になるので、これからも乗務員採用は進めていくが、いろいろなアイデアやご意見をお聞かせいただけるとありがたい。

・観光客が増えて数字として良くなっていることは決して悪くないことではあるが、一方で地域住民の方の利用に支障が出ていないか、観光客に向けたダイヤに変わってしまい他の人が使いにくい状態が起り得るのではないかとということが心配。

・観光地ではない住宅街で乗降者数の定点調査などを行った方がいいかもしれない。

⇒バス停や車内でのインタビュー調査など手法は検討し、地域住民の方の声を聞きながら、計画の評価指標も今回の改訂のタイミングで、地域住民と観光客を分けて考えられるような指標についてご助言を頂きながら考えていきたい。

・増便も出しており、途中バス停である淀川や中津高校下、落合などで乗車できないというような声は現状ない。

・運転手の確保について、インフラを担う人材については事業者だけに任せてお願いできる時代でもなくなってきており、人口減少が前提としてあるが、行政はじめ地域の皆さんで自分事として考えていく時期に来ていると思う。引き続き何かできることを検討していきたい。

報告5 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価等（都市計画課）

・報告5について説明（事務局）

【質疑・意見等】 なし

報告 6 令和 8 年度事業計画（案）（都市計画課）

・報告 6 について説明（事務局）

【質疑・意見等】

- ・高校生のバス通学支援について、売り上げの多くを高校生の通学定期券が占めているが、コロナから年々通学定期券の売り上げが減っていた。今年度に入り通学定期券の利用が増えたということで、市の助成が利用促進に繋がっており、ありがたく感じている。保護者の方も市の制度ができてよかったと直接声も聞いているので、今後も継続してほしい。
- ・中津川の観光資源を使っていろいろな企画切符を作っているが、今年度は苗木城が築城 500 年ということで馬籠と苗木城を 1 日で巡るフリー切符を販売しており、秋に向けて増大していきたい。
- ・おいでん祭が今年 40 周年ということで、現在支局にも相談しているが、8 月 12、13 日に 2 日間乗り放題の切符を作る企画を考えている。切符を買っていただければ、加子母や付知地区からは安く中津方面へ来ることができる。
- ・駅前通行止めや夜のダイヤなど多少の課題はあるが、トライしていきたいと思う。販売の際はホームページで周知するので、興味のある方はご購入いただければと思う。

報告 7 中津川市地域公共交通計画改訂中間報告（都市計画課）

・報告 7 について説明（事務局）

【質疑・意見等】

- ・アンケート設問だけではなく、中津川市における公共交通の現状を冒頭に入れ、現状を踏まえて皆さんの意見を聞かせてくださいというような構成はいかがか。
⇒アンケートを送付する際には、地区ごとの費用を示した資料も同封する予定。
- ・面倒くさい内容はだめ、たくさん文字があってその返答を答えるようなアンケートはやらない方がいい。回答に丸を打たないような方法にしてみようと協力してくれると思う。
⇒概要資料も長い説明は省き、みなさんがよりわかりやすい資料となるようにしたい。アンケート設問も改訂業務を行っていただく日本工営都市空間(株)と検討していきたい。
- ・3 月に計画の改訂をするのであれば、9 月に骨子、12 月に素案を作ってパブコメをやるのが運営の流れだが、昨年度中に骨子ができており、今年度アンケートなどでさらに深堀することがすごいと思う。分析では、SWOT 表を用いてわかりやすくまとめられている。
- ・計画の期間は何年か。
⇒5 年間。
- ・計画では KPI を定め進捗を図っていくことをよくやるが、そのあたりはいかがか。
⇒現計画の評価指標で十分評価できているのか、現状がうまく反映できているのかということも踏まえながら、変えるべき指標は変える必要があると思う。どのような指標かということは現時点では具体的に決まっていないが、見直しをしていきたい。
- ・利用者アンケートはしないのか。
⇒しない予定。
- ・実際使われている方がどう考えているのかということが重要かもしれないので、細かいことは難しいが、車内にポストを置いて投函してもらうようなことはできるのかなと思う。
⇒利用者アンケートについては日本工営都市空間(株)と相談しながら検討したい。

・今回の議論の中でも高校生がどう考えているのかということは結構大事。また、高齢者がちゃんと使いやすいものになっているかということも大事だが、最近よく議論されているのが、特に女性が多いかもしれないが、両親の送迎のために時間を割く方について。うまく公共交通ができていれば、その方々が働く力になることが地域にとって非常に大きな効果があると思っている。

・今回は高齢者や通勤・通学者という構成だが、実はあまり公共交通を使っていない家庭内活動で時間を使われている方の実態を把握した方がいいのではないかなと思う。

・アンケートは世帯票のみでやるのか。個人、いわゆるパーソントリップ調査のように個人票と世帯票がある形ではなく、世帯に1枚送りそれに答えてもらう形か。

⇒世帯票のみ。

・検討会で出された課題の中で「各地域からの市民病院のアクセス検討」とあるが、どのような課題なのか、重要性はどれくらいあるのか。

⇒中津川市は市域が広く、各地域から市民病院へ直接行きたいという気持ちがあるが、現状は乗り換えたり、便数が少なかったりする。そのあたりをアンケート調査で意見を拾って検討したいと考えている。

・アクセス検討の設問がアンケートに入っていないような気がするので、ご検討いただきたい。

⇒直接市民病院を捉えた設問は無いので検討する。

■議題

議題1 地域公共交通計画（別紙）の認定申請

・議題1について説明（事務局）

【質疑・意見等】

・補助基準の目標値を達成していないところに対して、何か対策は検討しているのか。

⇒具体的な対策は決まっていない。路線の沿線では世帯数が減少、今まで利用していた高齢者の方が病院や施設へ入居することで利用者が減っている。今まで利用していない方で移動手段を必要としている方はいると思うので、コミュニティバスの存在自体を再周知し、新規利用者を獲得したい。

・地域の自治会などに話を聞きに行く。現状も伝えながら、何か不便なことはないか、どのようにしたら使ってもらえそうかななどを聞いてもらうことも悪くないかなと思う。

【採決】 承認

議題2 令和8年度中津川市公共交通会議予算案

・議題2について説明（事務局）

【質疑・意見等】 なし

【採決】 承認

議題3 自家用有償旅客運送（市町村福祉有償輸送）の更新

・議題3について説明（事務局）

【質疑・意見等】

- ・更新にあたり確認だが、事故などはなかったか。

⇒直近で事故はない。

- ・このまま安全運転に努めていただきたい。申請の際には書類のことで細かい訂正や修正が入る可能性があるので、一任していただきたい。
- ・加子母地区は中津から1時間程かかるが、現状の中で「地域によってサービスの不均衡が発生しないように」と記載があるが、具体的な対策は考えているのか。

⇒市域が広いが、どこの地域に住まわれている方にも移送サービス事業に関しては、中津川市または隣接する市の病院までの移送サービスを行っており、変わらないサービスを提供できるよう運用を心がけている。

- ・加子母から市民病院までは約40kmあり、上限額を設けたり、月の利用回数制限を拡大したりするような、負担を解消する計画はあるか。

⇒民間事業者が実施している介護タクシーなどの事業もあるので、市の事業が民間事業を圧迫し得る問題に繋がることも考慮し、事業を実施している。単価や回数を拡充していく予定はないが、高齢者の状況は年々変わりゆくものではあるので、ときどきの要望に応じて内容については精査していきたい。

【採決】 承認

議題4 自家用有償旅客運送（公共交通空白地有償運送）の更新

- ・議題4について説明（事務局）
- ・各NPOより利用状況や安全性の確認について説明

【質疑・意見等】

- ・スクールバスの業務を担っている関係で、やはり緑ナンバーを持っているチェック体制がしっかりしている会社にやってもらいたいということを言われることがある。否定するわけではないが、安全性のチェック体制が先日の白ナンバーの事故なども含め厳しくなっているのが現状だと思うので、そのあたりを踏まえ、チェック体制をどのようにしていくのかを伺いたい。

⇒運行前後のアルコールチェック、管理者による運行、運行前後の体調管理、また学童の利用もあるので降ろし忘れがないよう業務を終えている。

運転手の中には二種免許を持っている方もいるので、安全管理について運転手で情報共有しながら努めていき、運行管理を徹底していきたい。

体調管理や車両のチェックは引き続き行っていくが、事故を受けて何かするというのであれば、市の方で規定を作ってもらえれば、それに従ってやっていく。

- ・ここ3年間で事故はなかったか。

⇒事故はない。

- ・申請の際には書類のことで細かい訂正や修正が入る可能性があるので、一任していただきたい。

【採決】 承認

議題5 落合地区コミュニティバス車両更新及び移動等円滑化基準適用除外

・議題5について説明（事務局）

【質疑・意見等】 なし

【採決】 承認

■議事終了

（その他意見等）

- ・席上に「バス業界就職支援パンフレット」を配布させていただいた。今日の議題でも話があったようにドライバー不足ということで、高齢化によって採用しても退職するという状況がある。業界としても求人募集を行い、またドライバーの待遇改善、確保を図る意味で運賃の値上げも行った。パンフレットについては、会議やイベントなどあらゆる機会を通じて配布し、広報できればと思っているので、ぜひご利用いただきたい。
- ・先ほども話があったが、事業用の安全チェックに対するハードルが高い状況。アルコールチェックや健康管理を行うこと、併せて業界では年に何回も事故防止について会議を開催し、内容を持ち帰って各事業者において運転手へ指導教育ということもやっていた。有償運送の運転手に対しても、指導教育という部分を併せてやっていただきたい。
- ・来年4月に中京学院大学が移転する話があり、学生層を中心とした路線があるが、市と相談しながらダイヤの減便なども含めて調整をしているので、ご承知おきいただきたい。
- ・報告と議題を聞かせてもらい、公共交通会議の中で生活支援サービスや福祉有償など、移動に関わることを広範囲にわたって議論されていることが非常に良い。
- ・交通を議論している場としては、サービスの中での役割分担を考えていくべき。介護の認定レベルで線を引くようなものもあると思うが、そうではないサービスにおいて、対象者なのか否かというところを今後考えていった方がいい。
- ・利用者の区分や時間帯、地域、あるいは目的地などに応じて、キャパシティや能力に応じたものを使っていれば市として円滑に対応できるのではないかな。そのためには、利用者人数だけではなく、もう少し細かいデータを頂き、稼働ができるよう事務局で検討できるといい。
- ・子どもを味方につけることが大事なので、子どもをターゲットにしたイベントで併せてコミュニティバスの紹介などをするのは非常に良い取組だと思う。書道の展覧会をコミュニティバスの車内で行ったり、イベントに合わせて運賃を無料にしたりするなど。選挙の入場券にコミュニティバスの無料券を付け、コミュニティバスで選挙に来てもらうようなことをやっているところもある。乗る機会やきっかけを作るようなことを考えていただきたい。
- ・どんどんきめ細かな議論になっていくと思うので、やはり地域の声を聞くことが最後は重要になってくる。必要に応じて利用が少ない地域においては、地域に入って話を聞いていただいて実りある計画になっていければいいと思う。アンケートについても協力させていただきたい。

■閉会